



40th
Tokyo
Art-Educational
Seminar

なぜ、美術を学ぶのか

令和5年度

第40回東京都中学校美術教育研究大会

第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会 研究紀要

ご挨拶

祝 辞	杉並区教育委員会	教育長 白石 高士	・・・ 2
都中美会長挨拶	江戸川区立春江中学校	校 長 横枕 耕史	・・・ 3
大会実行委員長挨拶	杉並区立松ノ木中学校	校 長 渋谷 里美	・・・ 3

I 大会テーマ

基調提案	大会研究局長	中野区立中野東中学校	河内 智香子	・・・ 6～7
分科会一覧				・・・ 8

II 実践発表

第1分科会	実践発表①	杉並区立和泉中学校	千野 希帆子	・・・ 10～13
	実践発表②	練馬区立北町中学校	西 比呂子	・・・ 14～17
第2分科会	実践発表③	中野区立北中野中学校	重岡 いづみ	・・・ 18～21
	実践発表④	杉並区立東田中学校	小豆澤 皓平	・・・ 22～25
第3分科会	実践発表⑤	練馬区立南が丘中学校	中山 貴子	・・・ 26～29
	実践発表⑥	練馬区立大泉北中学校	升岡 佳代	・・・ 30～33

III 大会資料

大会実施要項	・・・ 36～37
大会組織一覧	・・・ 38
都中美HPについて	・・・ 39

第40回 東京都中学校美術教育研究大会
第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会

～ 研 究 紀 要 ～

なぜ、美術を学ぶのか

この度、第40回東京都中学校美術教育研究大会第3ブロック杉並大会が開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

社会が「正解なき時代」へと進む中、更なる進化の中で求められている人物像は、自由な発想力や想像力、自分の考えを具体化し、表現して伝える力、新しいものを生み出す想像力などをもった人材です。これからの社会は、幅広い知識や専門的な方法をもっているだけでは、AIやIoTなどの先端技術をもった更なる進化に寄与していくことは難しいと言われています。大きく変化していく時代の中で、身近な人やもの、自然などに関わり合いながら、自分で感じ、考え、表現することを通して、楽しさや喜びを味わう体験は欠かすことはできません。

本区の教育ビジョンでは、「子どもの思いを尊重することや「ちがいを受け入れる」こと、「学びの成果を贈り合う」ことなど、一人ひとりが教育の当事者として心がける5つの視点を掲げており、これは、美術科の目標に通じるものであると確信しています。

また、本大会の研究主題である「なぜ、美術を学ぶのか」からは、美術の本質的な魅力を実感し、学びの目的を生徒自身が自覚しながら、授業に没頭する子どもたちを増やしていきたいという熱い思いが伝わってきます。本大会の研究成果を通して、美術科教育の一層の充実が図られますことを、心から御期待いたします。

結びに、本研究大会の開催にあたり、御尽力いただきました多くの先生方や関係者の皆様、また御指導を賜りました講師の方々に感謝を申し上げますとともに、大会の成功と本研究会のますますの御発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

東京都中学校美術教育研究会 会長
江戸川区立春江中学校
校長 横枕 耕史

東京都中学校美術教育研究会第3ブロック大会 実行委員長
杉並区立松ノ木中学校
校長 渋谷 里美

第40回東京都中学校美術教育研究大会第3ブロック大会の開催にあたり、杉並区教育委員会・練馬区教育委員会・中野区教育委員会をはじめ各関係の皆様方のご尽力とご支援に心より感謝申し上げます。

本会では、これまで美術科教員相互の連携を図り、授業力を向上するため研究大会や研修会の場を通じて、中学校美術教育についての実践的な指導方法の研究・改善を行い、成果を発信してきました。本会が担うべき大きな役割は、美術科教員相互の連携を図り、教科指導の専門性を高める学びの場を提供することにあります。

これからの学校教育においては、多様で異なる存在である子どもたち一人ひとりが持続可能な社会を創成していく担い手となるよう、自分なりに課題に気付く力や、多様な他者と協働して課題解決していく力や、様々な情報を再構成して新たな価値につなげていく力などの資質・能力を育成していくことが求められています。

本大会では、研究テーマを「なぜ、美術を学ぶのか」と定め、中学校学習指導要領美術科の目標「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」を目指し、美術は何を学ぶ教科なのかということを確認し、子供たちが生涯にわたって造形的な見方・考え方を働かせ、能動的に学び続け、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けることができるようにするため、学びの本質を重視した美術科の指導の在り方についての研究がなされております。

本大会を通じて発表される優れた実践や新たな視点について情報など、本研究の成果が造形美術教育に関わる多くの皆様方に共有・活用され、美術科授業の質の安定とより一層の向上を図る取組が推進されることを願っております。

令和5年度 第40回東京都中学校美術教育研究大会第3ブロック大会が、杉並区を会場に、中野区、杉並区、練馬区の3地区共同で開催できることに、緊張と大きな喜びを感じております。

本来ならば実際に公開授業を見て頂き、研究協議の流れになるところです。しかし予測できないコロナ禍において、昨年度の第2ブロック世田谷大会を参考に、第3ブロックとしての試みである公開授業を撮影しそれを基に、研究協議会に臨む形式にいたしました。また、当日は杉並区立泉南中学校を会場に、昨年同様、ハイブリット型での実施とさせていただきます。基調提案の中にもある、社会の変化に合わせ、変わるものと変わらないものを見極めが、まさにこのような取組にあると感じます。

大会テーマである、「なぜ、美術を学ぶのか」は、何気ない日常に潤いを与え、心の安定を生んでいるそのものこそが、美術であるということ、生徒のみならず私たち教員にも、社会にもそして世界にも発信するときだと感じたからです。当たり前が失われた虚無の日々を体感した今だからこそ、心豊かに思い切り表現することを楽しみ、楽しませたいと考えます。そしてそのことは、人として生きていくうえで、本当に大切なことです。ぜひ多くの人に、美術を教える教員で良かったと再確認してもらえる大会になればと思っています。そして本大会が終了しても、本テーマのもと、全都の美術科教員が誇りと喜びを感じながら、より長く美術教育に携わり美術を深め、広げていただけたら幸いです。

最後になりましたが、本研究大会の開催に当たり、東京都教育委員会、第3ブロック各区の教育委員会をはじめ、各区中学校校長会、関係機関の皆様にご挨拶申し上げます。また、本日御講演を賜ります文部科学省初等中等教育局教科調査官 平田 朝一先生に厚く御礼申し上げます、挨拶とさせていただきます。

I 大会テーマ



基調提案

第40回 東京都中学校美術教育研究大会 第3ブロック（中野・杉並・練馬）大会テーマ

「なぜ、美術を学ぶのか」

大会研究局長 中野区立中野東中学校 河内 智香子

令和3年度から全面実施となった「中学校学習指導要領」美術編の改定は、2030年代の社会の在り方を見据えて進められ、情報化やグローバル化がさらに進み、人工知能の急激な進化など複雑に変化し続ける社会の中で、学校は何を教えるべきなのか、生徒にどのような力を付けさせるべきなのかを考えた結果が反映されています。その中で、豊かな創造性の育成を目標とする美術科の授業は、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の形や色彩などの造形要素に着目し、一人ひとりの生徒が自分との関わりの中で、普遍的な「美術」の価値を味わうとともに「社会の変化」や「生徒の変容」に対応していく必要があります。社会の変化が加速度的に進行している現在、私たち教師はその進行の中で変わるものと変わらないものを見極めながら意図的計画的に美術の授業を展開していくことが求められています。また、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善や、学校教育で育てるべき資質・能力の整理などが掲げられており、それらの根本理念として「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。

本大会では「なぜ、美術を学ぶのか」という大会テーマを掲げ、これまでの美術教育を踏まえながら、これからの美術教育にとって必要な学びは何なのか、生徒一人ひとりにとってこれからの社会を生きる中で求められる美術教育は何なのかを根本から考え、授業づくりや授業改善の提言をしています。

美術教育は、時代ごとに様々な変遷を遂げてきました。表現技法を身に付けさせることが第一の目標ではなく、表現することの喜びを味わわせ、美しさを感じる心を育成し、感性を豊かにし美術の基礎的能力を育成することを目指し、「芸術の教育」によって、人間形成のための感性を養うという大きな役割を担っている教科なのです。

これからの社会で生きる美術を考える中で生まれた本大会テーマと分科会テーマ

本大会テーマを考えるにあたり、「美術教育をする中で大切にしていること」や「これからの美術教育に求められている」ことなどを3区の先生方にアンケートをとりました。その中で、「なぜそれを学ばなければならないのか」ということを、教員の意識としても、生徒たちの意識としても弱いのではないかという指摘がありました。美術教育は、「生徒の主体的な学習への参加」を重視し、教師主導ではなく、生徒に内在する素質や創造力を引き出すことが大切です。本研究を通じて、美術教育は何を育成するべきなのか、生徒はどのような力を付ける必要があるのか、美術と社会はどのようにつながっているのかを、教師自身が根本に戻り考えることができるよう「なぜ、美術を学ぶのか」を提案します。

分科会テーマ1 「鑑賞から表現へ」

生徒は表現する中で常に作品や活動と向き合い、繰り返し鑑賞を行っています。本来、表現と鑑賞は一体であり、資質・能力を育成するためには一体的な指導が必要です。鑑賞活動を通し、様々な価値観や異なる見方・視点に気付くことで、芸術的な感性を生かした心豊かな生活や、社会的な価値を創り出す創造性につながります。鑑賞と表現を一体的・連続的に扱うことで、互いの学びに相乗効果を生み出し、学びの意味を意識した授業づくりができると考え、「鑑賞から表現へ」をテーマに設定しました。

分科会テーマ2 「社会や生活の中の美術」

美術の授業について、絵を実物そっくりに描いたり、彫刻刀が上手に使えるようになったり等を学ぶものだと思っている生徒は少なくないと思います。そうしたことも、自分自身が何を美しいと思い、何に興味を感じ、どんなものを創作したいと考えることとつながっています。しかし、毎日使う日用品や通りすがりの工事現場に置かれたアニマルガードを面白く感じる等、興味をもち日常の中の「美」を見つめ、社会が美術とのつながりにあふれていることに気付かせることはもっと大切です。授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるとい実感をもてるよう、指導の改善・充実を図ることが求められていると考え「社会や生活の中の美術」をテーマに設定しました。

分科会テーマ3 「主題を生み出すことについて」

学習指導要領では、主体的で創造的な表現の学習を重視し、全ての事項に「主題を生み出すこと」が位置付けられています。題材の中で生徒自身が自分事としてとらえ、どのように主題を生み出していくのか、自己の表現を造形的な視点で捉え直し、表現を追求し高めていくには、教員としてどのような手だてや指導が必要なのかを考え「主題を生み出すこと」をテーマに設定しました。

人間の豊かさ、生活の彩りや潤いの中には美術は切っても切り離せないものです。その本質に立ち返り美術教育の大切さと素晴らしさを、携わるすべての教員が信念をもち今の中学校美術教育の中で確かなものにするために本大会が一助となることを願っています。

分科会一覧

第1分科会 「鑑賞から表現へ」 会場：1-A 教室

- 実践発表① 「私が表現する理由 -あの日を忘れない-」
第3学年 内容：A表現 絵や彫刻など
杉並区立和泉中学校 千野 希帆子
- 実践発表② 「絵画のナゾを究明しよう！」
第2学年 内容：B鑑賞 絵や彫刻など
練馬区立北町中学校 西 比呂子
- 世話人 杉並区立高井戸中学校 滝口 浩史
記録 練馬区立谷原中学校 高野 朱未
指導・助言者 板橋区立桜川中学校長 前田 康夫 先生

第2分科会 「生活や社会の中の美術」 会場：1-B 教室

- 実践発表③ 「魅力を伝えるパッケージデザイン」
第3学年 内容：A表現 デザイン・工芸など
中野区立北中野中学校 重岡 いづみ
- 実践発表④ 「折って、切って ～自分で生み出す美しさ～」
第2学年 内容：A表現 デザイン・工芸など
杉並区立東田中学校 小豆澤 皓平
- 世話人 杉並区立高円寺中学校 鈴木 ひとみ
記録 中野区立南中野中学校 長瀬 裕里子
指導・助言者 昭島市立瑞雲中学校長 山下 久也 先生

第3分科会 「主題を生み出すことについて」 会場：1-C 教室

- 実践発表⑤ 「共に過ごしたものを形に」
第3学年 内容：A表現 絵や彫刻など
練馬区立南が丘中学校 中山 貴子
- 実践発表⑥ 「感じる漢字☆ ～楽しい絵文字のメッセージ～」
第1学年 内容：A表現 デザイン・工芸など
練馬区立大泉北中学校 升岡 佳代
- 世話人 練馬区立三原台中学校 須賀田 美佐子
記録 練馬区立練馬中学校 志村 美智子
指導・助言者 世田谷区立砧南中学校長 松永 かおり 先生

II 実践発表



私が表現する理由 —あの日を忘れない—

A表現(1)ア(ア)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア(ア)、共通事項(1)アイ

[対象] 杉並区立和泉中学校 3年C組 (29人)

[授業者] 教諭 千野 希帆子

1 目標と評価

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

- 知** ① 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。(〔共通事項〕)
 ② 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。(〔共通事項〕)
- 技** ③ 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表す。(「A表現」(2))

イ 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- 発** ① 自分の経験に対して「表現する理由」を見つけ出すことで主題を生み出し、単純化や省略、強調を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに絵画の構想を練る。(「A表現」(1))
- 鑑** ② 造形的なよさや美しさ、作品の中で取り入れられている効果的な工夫を感じ取り、作者の制作意図や表現の工夫、またそれらから感じ取ることができる「美術の力」などについて考え、見方や感じ方を深める。(「B鑑賞」(1))

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- 態表** ① 美術の創造活動の喜びを味わい、作者の制作意図や自分の経験を基に、主体的に主題や構想を練り学習活動に取り組もうとする。
- 態鑑** ② 作者の制作意図や表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

(2) 題材の評価規準

ア 「知識及び技能」	イ 「思考・判断・表現」	ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
① 形や色彩、材料などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ② 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 ③ 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表している。	① 自分の経験に対して「表現する理由」を見つけ出すことで主題を生み出し、単純化や省略、強調を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに絵画の構想を練っている。 ② 造形的なよさや美しさ、作品の中で取り入れられている効果的な工夫を感じ取り、作者の制作意図や表現の工夫、またそれらから感じ取ることができる「美術の力」などについて考え、見方や感じ方を深めている。	① 美術の創造活動の喜びを味わい、作者の制作意図や自分の経験を基に、主体的に主題や構想を練って、学習活動に取り組もうとしている。 ② 作者の制作意図や表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 指導観

(1) 題材観

本題材は、大会テーマ「なぜ、美術を学ぶのか」に対する、授業者の「私たちは誰でも表現者だから」という一つの答えとして構成した。日本文教出版「美術 2・3下」より「美術の力を考える『あの日を忘れない』」を導入として鑑賞から表現へと繋げていく。

鑑賞では、東日本大震災から着想を得て描いた池田学〈誕生〉と、ゲルニカへの無差別爆撃を描いたパブロ・ピカソ〈ゲルニカ〉を扱う。この二作品は実際に起きた出来事を基に描かれている。そこに込められた怒りや疑問、そして葛藤といった、いわゆる「作者の表現した理由」が、形や色彩のどのような工夫に表れているか、美意識を働かせて考えることで、見方や感じ方を深めさせる。そして、これら二作品の鑑賞を通して「美術の力」とは何かを考えることで、表現の活動において「美術だからできる表現」を取り入れていく意識に繋げていく。

表現では、鑑賞活動で見た作品の作者に自分を重ね、自分にとっての「あの日」を見つけ出し、課題のテーマとする。その日に対する「表現する理由」から形や色彩の工夫を考え、絵画の構想を練っていくことを発想における育てたい力とする。作品は、水彩紙とポスターカラーを用いる。これまで学んできたポスターカラーによる平塗りや水彩塗りから、求める表現に合わせた用具の使い方を探究していくことを目標とする。絵の具に混ぜ合わせる水の量を吟味したり、他の描画材との組み合わせ方を工夫したり、ぼかしや点描といった表現技法を取り入れたりするなど、主体的に表現を模索していくことを知識・技能における育てたい力とする。

分科会テーマ「鑑賞から表現へ」に対し、本題材は、鑑賞によって広がった見方や感じ方を、色や形での自己表現として可視化していく題材である。作者たちが「表現する理由」をもっていたように、自分はなぜ表現するのか、鑑賞をきっかけに自分を「表現者」と位置付けて表現していくことを目指す。

(2) 生徒観

鑑賞においては、第1学年で文字のデザイン、屏風作品、第2学年でジャポニスム、現代美術、第3学年で新幹線のデザイン、仏像などに触れてきた。屏風作品では、「折る」作品の表現に注目し、モチーフの大きさや配置の工夫について細部まで鑑賞し、ジャポニスムでは、日本の作品に影響を受けながらも息づく作者それぞれの個性を感じ取った。新幹線のデザインでは、「使う人」を考えたデザインにとって何が大切なのか、作者の工夫を鑑賞者の視点で感じ取った。また、表現においては、絵画、デザイン、版画、立体造形といった技法に触れてきた。

意欲的に表現活動と向き合い、難易度の高い表現にも挑戦する生徒が多い。向上心の高さが窺える半面、理想に技能が伴わず、自らを苦しめてしまう生徒もいる。今まで学習してきた表現技法の生かし方を意識させ、自由な幅広い表現を取り入れながら、豊かな発想力を伸ばし自信へと繋げたい。

(3) 教材観

「鑑賞」では、池田学とパブロ・ピカソの作品を鑑賞し、歴史的事実を扱った作品を鑑賞して、鑑賞者として作品をどのように受け取ったのかを出発点として、作者の言葉や制作の動機を知った後、「絵描き」にとっての「表現する理由」とは何かを考えていく。

「表現」では、今の自分を創り上げるきっかけとなった「あの日」から主題を生み出していく。しかし、〈ゲルニカ〉や〈誕生〉のように、天災や戦争を主題として強制されることは、生徒にとって難題で重い内容のため「あの日」に制限は設けない。また、鑑賞で扱う二作品に影響されず、喜怒哀楽等広義的に「あの日」を捉えるように促す。主題の検討では、思考ツールのマッピングを用いる。この段階で、生徒からは自身の忘れられない日のことや、衝撃を受けた社会の出来事、忘れてはいけないと思う歴史上の出来事、さらには中学校生活の中での自身の心の揺らぎが起きた瞬間などが挙げられることを想定する。選び出した「あの日」に対して、自分の「表現する理由」を選び出し、絵画の構想を練る。発想や表現方法、画面の構成に多様な表現が生まれるよう鑑賞で扱う二作品の他に、喜びや幸福感といった感情をテーマとした作品も提示する。表現には、水彩紙とポスターカラーを用いるため、自分の表現したいものに合った表現技法を求めて、計画的に制作するように指導する。

3 材料・用具

指導者：タブレットPC、画用紙(マーメイド・A4)、ワークシート

生徒：筆記用具、タブレットPC、ポスターカラーセット

4 指導計画と評価計画 (全8時間)

時間	学習のねらい	活動内容	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ① 歴史的事実を扱った作品を鑑賞し、作品それぞれの表現の違いや工夫について考え、見方や感じ方を深める。 ② 鑑賞の中で感じたことをから「美術の力」について考え、見方や感じ方を深める。 	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 絵描きはどのようにして絵を描くのか考える。 ② プロジェクターで投影されたパブロ・ピカソ〈ゲルニカ〉を、作題を伏せて鑑賞して、「何が描かれているのか」「どのような色で描かれているのか」「なぜこの絵が描かれたのか」を考える。 ③ 作題を確認し、そこからの印象を考える。 ④ 作者が表現したかった事とは何だったのかを考え、ワークシートに記入する。 ⑤ 教科書を開き、パブロ・ピカソの言葉を確認する。 ⑥ プロジェクターで投影された池田学〈誕生〉を、作題を伏せて鑑賞して、「何が描かれているのか」「どのような色で描かれているのか」「なぜこの絵が描かれたのか」を考える。 ⑦ 作題を確認し、そこからの印象を考える。 ⑧ 作者が表現したかった事とは何だったのかを考え、ワークシートに記入する。 ⑨ 教科書を開き、池田学の言葉を確認する。 ⑩ 宿題題材名にも記されている「美術の力」とは何か、本時の内容を受けてワークシートに記入する。 ⑪ 本題材の制作に関する説明を受ける。(今の自分を創り上げるきっかけとなった「あの日」をテーマとし、その日を「表現する理由」を明確にし、絵画を制作する) 	<ul style="list-style-type: none"> ア-① ア-② イ-① ウ-② <p>ワークシート</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ① 今の自分を創り上げるきっかけとなった「あの日」を設定し、主題を生み出す。 ② 設定した「あの日」に対して、自分にとってその日を「表現する理由」は何になるのかを明確にして、絵画の構想を練る。 	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 喜びや幸福感、決意を想起させる作品を鑑賞し、天災や戦争以外にも「あの日」があることを理解する。 ② 本題材の制作に関する制作の決まりや評価規準の説明を受ける。 ③ 空想を含んだ表現や、絵の具の使い方など、表現の幅の可能性を考えるための作品を鑑賞する。 ④ 指導者の見本のマッピングを参考に、「あの日」を中心に据えたマッピングを行う。 ⑤ マッピングの結果からテーマとする「あの日」の候補を最大二つ挙げ、それらは「いつ」の出来事で「表現する理由」は何になるのか整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> イ-① ウ-① <p>マッピング アイデアスケッチ</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ① 「デペイズマン」と「構成美の要素」を学び、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 ② 見つけ出した「あの日」に対して、自分にとって「表現する理由」は何になるのかを明確にして、絵画の構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「デペイズマン」と「構成美の要素」に関して、参考作品を鑑賞しながら説明を受け理解する。 ② 「あの日」をテーマに、「表現する理由」からどのような創造的な構成の工夫を取り入れるか考えアイデアスケッチを行う。 ③ アイデアスケッチの中から下絵を一つ決める。 	<ul style="list-style-type: none"> イ-① ウ-① <p>アイデアスケッチ</p>

4	①「表現する理由」に基づいて、色彩が感情に与える効果を意識し、ポスターカラーや水彩紙の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。	【表現】 ① アイディアスケッチの内容を基に、必要に応じて資料を活用しながら本番用紙に下絵を描く。 ② 色彩が感情に与える効果を参考に、どのような配色にしていくか考える。 ③ ポスターカラーの水の量や筆遣い、筆選びを工夫して、着色を行う。 ④ 制作の進捗を記録し、提示された制作スケジュールと比較しながら自身の制作計画を調整する。 ⑤ 主題を振り返り、自身の作品に寄せたキャプションを書き、作題を決める。 ⑥ 学習や制作で身に付けたことや工夫したことを、自己評価シートを記入する。	ア-③ イ-① イ-② ウ-① 作品本体 キャプション ウ-① ウ-② 作品本体 キャプション 授業内評価 制作記録 自己評価シート
5			
6			
7			
8			
校内作品展	○ 相互鑑賞において造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や考え方を深める。	【鑑賞】 ○ 校内作品展において本題材の展示を鑑賞し、形や色彩の工夫に関して感じ取り、鑑賞シートに記入する。	イ-② ウ-② 鑑賞シート

5 指導に当たって

- ・「あの日」という生徒にとっての過去を描かせるにあたり、過去の記憶をさかのぼった絵日記や記録写真のような作品を描くのではなく、自分にとっての「表現する理由」を最大限に表現するための絵画的な工夫を積極的に取り入れられるように指導したい。
- ・鑑賞の中で「美術の力」を考えることが、世の中には様々な表現媒体がある中で、「美術だからできること」「アートだからできること」を生徒に実感させ、生徒にとって「絵を描く」ということが、より気軽に、制限のない表現手段になることに繋がることを目指して指導したい。
- ・「今の自分を創り上げるきっかけとなった『あの日』」という、非常に個人的なテーマに対し、生徒一人ひとりが丁寧に自身と向き合って、自己のアイデンティティに気づくことに期待したい。そして、自分にしか分からない感情を基に自由に構想を練っていく過程で、表現活動の大変さと喜びを同時に実感しながら、自分のもっている面白さや感性の豊かさに、生徒自身が気づいていけるように指導したい。
- ・相互鑑賞の活動から、それぞれの価値観や経験には大きな違いがあることを実感することで、生徒自身の自己肯定感の向上と他者理解に繋がることを期待する。

「あの日」スケッチ

▲ マッピング

▼ マッピングをうけての具体化

▲ 具体案

▼ 制作記録

10/11 (日)	0%	本番用紙に入れ、次回へ納入準備を完成させ「あの日」を表現したい。次、バリエーションをつけたい。
11/1 (日)	50%	難関の下書きは完成した。かつ次回へ納入準備も終った。し、絵画鑑賞、石版印刷を考えた。

▶ キャプション

	た	も	者	馬	を	絵	水	筆
	。	飛	げ	大	と	と	と	と
	。	命	雄	え	描	草	紙	
		越	あ	大	く			
		え	る	下	紙	蛙	私	
		る	限	障	さ	と	も	に
		。	リ	原	っ	い	馬	ニ
		私	生	を	た	う	も	つ
		も	き	得	。	も		与
		蛙	る	た	蛙	の	飛	へ
		モ	。	。	大	は	び	し
		馬	七	そ	水	私	跳	は
		も	難	し	を	に		ぬ
		一	ハ	テ	得	全	る	
		緒	苦	両	て	て		

▶ 完成作品に最も近い具体案

6 合理的配慮について

生徒一人ひとりが様々な背景をもっているため、自己内省に当たり、生徒が暗い内容に流されてしまったり、気持ちが落ちてしまったりしないように、様子を見て声掛けを行っていく。

絵画のナゾを究明しよう！

B鑑賞(1)ア(ア)、共通事項(1)アイ

[対象] 練馬区立北町中学校 1年1組(38人)

[授業者] 教諭 西 比呂子

1 目標と評価

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

- 知**
- ① 作品に使われている形や色彩などが、鑑賞者の感情にもたらす効果を理解する。
 - ② 造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。

イ 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- 鑑**
- ① 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- 態鑑**
- ① 美術の創造活動の喜びを味わい、作品や美術文化について、楽しく鑑賞の学習活動に取り組みもうとする。

(2) 題材の評価規準

ア 「知識及び技能」	イ 「思考・判断・表現」	ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
<ul style="list-style-type: none"> ① 作品に使われている形や色彩などが、鑑賞者にもたらす効果を理解している。 ② 造形的な特徴を基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 美術の創造活動の喜びを味わい、作品や美術文化について、主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 指導観

(1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 美術

[第1学年] 2 内容

B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

(ア) 造型的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

[共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けられるようにする。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

を受けて設定した。

エドヴァルド・ムンクの「叫び」を鑑賞するなかで、生徒が作品を見た時の第一印象を上げさせ、作品のどのような部分が鑑賞者にそう感じさせたのかという部分を「ナゾ」として設定し、同じ印象をもった生徒同士でグループを作り、鑑賞活動を行っていく。

作品を鑑賞する際、生徒の多様な意見や発想を積極的に認めていくために、1つの答えに向かっていく「解明」ではなく、ヒントや意見をもとに自分なりの答えを提示する「究明」という表現を使う。

「ナゾ」の究明にあたって、「色が鑑賞者にもたらす効果」「形が鑑賞者にもたらす効果」「ムンクの他の作品」の3つの資料をclassroomに提示し、自由に見られるようにする。形や色彩が鑑賞者に与える効果を参照しつつ、作者の作風を捉え、「作品のこういう表現から自分はこういう印象を受けていたのか」と不明瞭だった感覚が言語化できるようになる過程を楽しみながら、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、今後出会う作品への見方や感じ方を広げていく活動とする。

今回の題材は絵画作品の鑑賞であるため、第1学年では「見方や感じ方を広げる」、第2学年及び第3学年では「美意識を高め、見方や感じ方を深めること」という表現の変化がある。名作と呼ばれる作品や身近なクラスメイトの作品など、多様な他者の表現に触れて見方や感じ方を広げ、その表現が生徒自身にとってどのような存在であるか、多様な感情や感覚の動きを自覚していくことで見方や感じ方が深まっていく。この深まりが生徒の表現へ昇華し、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようになると考えた。

(2) 生徒観

中学校での鑑賞活動は、今回の活動が初めてとなる。1学期の最初は「鉛筆マスターになろう」「絵の具マスターになろう」という、平面作品を作る上での基本的な鉛筆デッサンと絵の具の扱いについての内容を学習した。今後、平面作品を作成する上で、自分の感じ取ったよさや美しさ、考えをどのように言葉や作品に表現するかは今後の課題となってくる点と予想できる。本題材では生徒のもつ視点を大切にしながら、形や色彩の性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し、造形的な特徴などを基に、見方や感じ方を広げる機会とする。鑑賞活動において見方や感じ方を広げ、作品にまつわる様々な要素から、生徒一人ひとりが自分なりの見方や感じ方に気づききっかけとしたい。また、この題材を経て、生徒が作品を制作するときに形や色彩、材料や光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し「見た人にこう感じてほしいからこの色を使う」などの創造的な構成を工夫できるように指導していく。

鑑賞活動に対して難しいと感じ、なかなか取り組めない生徒には、描かれているものや使われている色など、客観的な事実から着想を広げていけるよう指導していく。

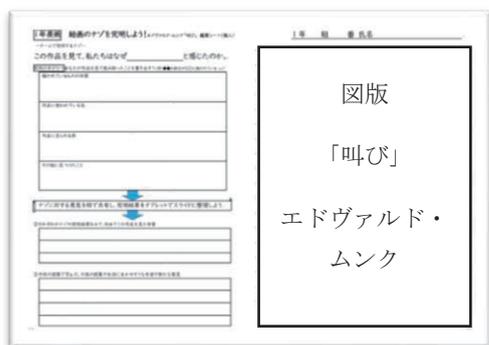
(3) 教材観

エドヴァルド・ムンクの「叫び」は、形・色彩・構図・心証の表現が巧みであり、知っている生徒も多く、親近感と疑問を抱きやすいと考え、この作品を教材とした。この歪んだ世界を表現しているような作風は、ムンク自身が「不安」「絶望」「恐怖」など、ネガティブな感情を表現する画家であり、精神的に問題を抱えており、幻覚や幻聴の症状があったことが影響している。生徒にとっては暗い内容ではあるが、その後、晩年のムンクは「太陽」という作品を描き、死に対する不安などの感情から開放されたことを感じさせている。1つの作品（「叫び」）を点で捉えず、様々な作品を線でつなぎ、作者の人生も含めて鑑賞し考えさせる。

<ふきだし君>は、生徒それぞれが作品を見た際に感じた第一印象を記入し、グループに分ける際に活用する。各グループの究明結果はスライドで行う。班員全員がタブレットを使用し、資料を見ながら話し合いができるよう進めていく。タブレットを活用しモニターに「ふきだしくん」の画面を写すことで、班を超えた進捗確認がしやすくなるという利点がある。

ワークシートは、生徒が感じた第一印象を紐解くために、「描かれているものの印象」「作品に使われている色」「作品に見られる形」「その他に見つけたこと」の4つを「究明の手がかり」として読み取らせる。タブレットでの活動を経て、「それぞれのナゾの究明結果をみて、改めてこの作品を見た印象」「今回の授業で学んだ、今後の授業や生活に生かせそうな内容や新たな発見」の記入欄があり、初めて作品を見たときの印象や、ナゾを究明することでわかったこと、作者について知ることで自分の中に生まれた変化などを記録できる内容とした。

<ワークシート>



<導入で使用する図版>

①もし歪みがなかったら ②もし色彩が明るかったら



3 材料・用具

指導者：タブレット端末、ふきだしくん（Web ページ）、スライド、ワークシート、参考資料（色彩・形が鑑賞者に与える効果の例、ムンクの他の作品の例、導入用資料）
 生徒：タブレット端末、筆記用具

4 指導計画と評価計画（全2時間）

時間	学習のねらい	活動内容	評価
1	作品の色や形などから、絵画のナゾを究明しよう。	<ul style="list-style-type: none"> エドヴァルド・ムンクの「叫び」を鑑賞し、第一印象で感じたことを6文字以内の言葉でふきだしくんに記入する。 ふきだしくんで記入された内容から、似たような印象をもった生徒同士で2～4人のグループになれるように座席を移動する。 タブレットに上がっている資料を参考にしつつ、グループで形や色彩、作風から分析していく。 スライドを活用して班での話し合いの内容をまとめる。 ワークシートに本時の活動の振り返りを行い、次回の活動へつなげる。 	ア① ウ①
2	各グループがふきだしくんにまとめた内容を共有し、作品の理解をさらに深めよう。	<ul style="list-style-type: none"> 互いのナゾと、その見解を見合う活動を行う。 作品制作のもととなったムンクの手記を読み、作者について理解を深め、今後の作品制作に生かしたい視点や発想を個人で考え、次回以降の制作につなげる。 	ア② イ① ウ①

5 指導に当たって

(1) 教材解釈・教材開発にあたって

エドヴァルド・ムンクの作品を通して、作風に触れつつ、生徒自身が作品を作るときにできる工夫や、メッセージ性の込め方について考えを深める機会としたい。そのために、作品を単体で見るのではなく形や色彩、作風との関係性を提示しながら考えさせる。

班員全員がタブレットを活用し、図版資料はワークシートとタブレットで見ることができるようにする。活動ごとに媒体を分け、見やすく学習に取り組めるように工夫する。

作品鑑賞にあたって、形や色彩に着目できるように「叫び」の歪んだタッチをまっすぐに修正したものと、色彩を明るく加工した資料を用意した。もしこのようなタッチ・配色だったら鑑賞者はどのように感じるかを考えさせ、元である「叫び」のタッチや配色は作者が意図的に選んだものであることを意識させる。

統率力・指導技術については、タイマーを活用して話し合いや発表の学習活動を明確に分けるとともに、メリハリのある授業を目指す。



(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、工夫・改善したこと

ア 授業形態の工夫

班の話し合いでは、視点を明確に示すことで、短い時間でも目標を見据えた話し合い活動が行えるようにする。

作品に対して同じ第一印象を抱いた生徒を集めて活動を行うことで、そのように感じた理由について究明しやすいように配慮する。

イ 指導方法の工夫

ワークシートへの取り組み具合に応じて、ナゾを究明した結果の内容に関しては「思考・判断・表現」、新たに気がついたことを「主体的に学習に取り組む態度」の評価とする。



<作品①>



(3) 鑑賞から表現へつなげる工夫と実践例

本題材は1学年2学期の初めに行われた題材であり、次の題材として「意味絵字（イメージ）」という漢字とイメージを組み合わせた作品を制作した。（右図作品①参照）

鑑賞の授業で学習した形や色彩が鑑賞者に与える印象の例を踏まえ、生徒それぞれが選んだ漢字に対するイメージを鑑賞者に伝わるように創意工夫し表現する題材となっている。

2学年1学期には、モダンテクニックを活用して感情を表現する「心のイメージを形に」という題材を行う。（右図作品②参照）

この題材では生徒自身が主題となる感情を決め、自分の経験や体験を深く見つめ感じたことや考えたことなどの心の世界を創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っていく。1学年で行った「絵画のナゾを究明しよう！」で学んだ形や色彩の効果を改めて確認するとともに、モダンテクニックの特徴を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表現していく。

3学年ではピカソの「ゲルニカ」を鑑賞し、過酷な世界情勢の中で生きた人々の生活や社会の中の美術の働きについて見方や感じ方を深め、「新発見！都道府県の魅力PR」というポスターカラーを活用した平面構成、「私の箱」という箱の内側に自分が思う自分を表現し、外側に他人から見た自分を表現するボックスアート、「私の大切な〇〇」という生徒が今現在人生において大切に考えている物事・人物などから主題を見だしスクラッチアートで表現する題材を行う。

今回紹介した「絵画のナゾを究明しよう！」は絵画作品の鑑賞であったため、学習指導要領第1学年B鑑賞（1）ア（ア）と[共通事項]（1）ア、イの内容がどのように表現につながっていくかを記載した。特にB鑑賞（1）ア（ア）について、第1学年では「見方や感じ方を広げる」、第2学年及び第3学年では「美意識を高め、見方や感じ方を深めること」という表現の変化がある。名作と呼ばれる作品や身近なクラスメイトの作品など、多様な他者の表現に触れて見方や感じ方を広げ、その表現が生徒自身にとってどのような存在であるか、多様な感情や感覚の動きを自覚していくことで見方や感じ方が深まっていく。この深まりが生徒の表現へ昇華し、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようになると思った。

<作品②>



6 合理的配慮について

今回の鑑賞活動は言語に頼る部分が多いため、外国籍の生徒への言語的配慮を要する。タブレットを使ったコミュニケーションや、感情を表現する時は顔文字などのイラストや英単語を活用して生徒が主体的に授業へ取り組めるように配慮する。

色覚異常により色彩からのイメージをつかみづらい生徒には、形や作風から読み取れる情報を活用し、鑑賞活動を行えるように配慮する。

魅力を伝えるパッケージデザイン

A表現(1)イ(イ)、(2)ア(ア)、B鑑賞(1)ア、共通事項(1)アイ

[対象] 中野区立北中野中学校 3年C組 (37人)

[授業者] 教諭 重岡 いづみ

1 目標と評価

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

- 知** ① 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。
- ② 造形的特徴などを基に、全体のイメージや作風などでとらえることを理解する。
- 技** ③ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。

イ 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- 発** ① 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。
- 鑑** ② 伝達の効果と調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

ウ 「学びに向かう力」に関する目標

- 態表** ① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとする。
- 態鑑** ② 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとする。

(2) 題材の評価規準

ア 「知識及び技能」	イ 「思考・判断・表現」	ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
知 ① 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解している。 ② 造形的特徴などを基に、全体のイメージや作風などでとらえることを理解している。 技 ③ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	発 ① 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。 鑑 ② 伝達の効果と調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態表 ① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 ② 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品や美術文化などの鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

2 指導観

(1) 題材観

本題材では、魅力的な商品を創造し、社会との関わりを考えながら、社会一般の不特定の人々を伝える対象として主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考えてパッケージを制作する。1時間目に、様々な地域や場所で使われているパッケージを鑑賞し、伝達のデザインに対する見方や感じ方を深め、本分科会のテーマ「生活や社会の中の美術」の社会的な事実を客観的に捉えることができるようにしたい。生徒が多くの人に気持ちや情報を伝えるための題材として、私たちの身近にあり手にする機会も多い牛乳パックを選んだ。この題材において、社会とかかわり、対象が「多くの人」であることや、条件が「商品の内容を魅力的に伝える」ことであることを意識し、主題を生み出すことができるようにしたい。

導入段階で、さまざまなパッケージデザインを各自が持ち寄り、鑑賞する。地域や社会との関わりなどといった客観的な視点からそれぞれのよさを感じ取ったり、製品に込められた制作者の心情や意図などについて考えることが、生徒が主題を生み出したり、自分の表したいものを見つけたりすることができるきっかけになると考える。どのような工夫をすれば伝えたいことが伝わるのか、それはどのような理由からなのかを明確にして話し合うことで、主題と表現が一致した作品制作につなげたい。

情報を分かりやすく的確に伝えるという効果と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を深めるために、企画書を制作する。「PRしたいところ」「ターゲット（誰に）」「伝えたいイメージ」「配色」などの項目を基に、主題を決定し、文章とスケッチでまとめることで、より多くの人に分かりやすく美しく伝えるための伝達の効果と美しさを総合的に考えることができるようになる。

時間をかけて制作するので、計画的に進めることが大切である。生徒の伝えたいことがより美しく効果的に生かされるよう、生徒がどのような考えでその手順を行っているかを見取り、適切に指導したい。

作品完成後の相互鑑賞会では、タブレットを活用して配布したワークシートに自他の作品のよさと美しさ、工夫などを記入する。自由に鑑賞する時間を設け、友人にインタビューする等、対話的な活動を行う。異なった見方や感じ方を尊重する雰囲気をつくるとともに、生徒が自分一人では気付くことができない多様な見方や感じ方ができるよう配慮し、美意識を高め、主体的な見方や感じ方を深めさせたい。

(2) 生徒観

第3学年は1、2学年での学びを発展させ、自分らしい考え方や価値観が形成される時期である。本校第3学年の生徒は、明るく前向きで素直な集団で、様々な題材に対して楽しみながら制作することができている。対話的な活動を今までの授業で多く経験しており、話し合い活動をスムーズに行うことができるので、制作の過程で相互の意見を交流する機会を多く取り入れるようにした。身の回りのことにはよく気づき、熱心に取り組むことができるので、第1学年で取り組んだ色彩学習、模様や絵文字のデザインや第2学年で取り組んだてん刻や水墨画、空間のデザインで学んだ、自分が表現したいことの簡潔化、伝達や構成の考え方を生かし、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考えさせ、生活や社会の中の美術の働きについて見方や感じ方を深める活動としたい。諸活動を通して気付いたことや感じたことから自分らしい考え方や価値観を築かせたい。

(3) 教材観

本題材では、受け手に商品の魅力が伝わるパッケージデザインとなるよう、伝えたいことを明確にし、それに応じて効果的な表現方法を考える活動を個人、グループで行う。

制作前後に鑑賞を行い、造形的な視点から見つけた工夫やよさを生徒が主体的に述べる機会をもつことで、自分の考えを明確にして、個々の世界観を広げさせる。導入時、グループでパッケージデザインを鑑賞しアイデアを話し合うことで、違う価値観を受け入れるなどして考えを深め、より主題と表現が一致した作品制作につながるようにする。相互鑑賞会では、自分の作品を撮影し提出してプレゼンテーションしたり、よいと感じた作品の作者にインタビューを行ったりすることで、自身の作品を客観的に見つめさせ、制作のねらいを実現できたか考えることができるようにする。

3 材料・用具

指導者：A3ケント紙、モニター、企画書

生徒：教科書、資料集、筆記用具、アクリルガッシュ、タブレット端末

4 指導計画と評価計画（全12時間）

時間	学習のねらい	活動内容	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ① パッケージデザインが感情にもたらす効果を理解する。 ② 作り手の意図を感じ取る。 	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各自、自宅からパッケージを持参する。 ② 持ち寄ったパッケージを鑑賞する。 ③ 班ごとに、持参したパッケージの特徴を一人一人発表し、制作者の意図や工夫を感じとり共有する。 ④ 各班で一番興味関心が高かったパッケージを1つ選び、代表者がクラス全員の前で意見を発表する。 	<p>ア-①</p> <p>イ-②</p>
2～3	<ul style="list-style-type: none"> ① 作品を見た人が受ける印象を想定し、どのようにすれば商品の魅力を効果的に伝えることができるかを考え、主題を生み出す。 ② 伝達の効果と美しさとの調和を考え、表現の構想を練る。 	<p>【発想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 商品の魅力を効果的に伝えるデザインを考える。 ② アイデアスケッチを描く。 ③ スケッチを基に、企画書を作成する。（写真①） ④ 企画書にコンセプト、色彩計画、図などを記入する。 	<p>ア-②</p> <p>イ-①</p>
4～11	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分の表現方法を追求して創造的に表す。 ② 形や色彩が感情にもたらす効果等を理解し、見直しをもって制作する。 	<p>【制作】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ケント紙の展開図に鉛筆でデザイン描く。（写真②） ② 着色前に、組み立てるときに容易に紙を折ることができるように、跡目をつける。 ③ アクリルガッシュを使用して着色する。内部が見えるよう一部を切り取ったり、布やセロファンなどを貼り付けたり、意図に応じて着色以外のデザインも施す。 ④ 組み立てて接着する。 	<p>ア-③</p> <p>ア-④</p>
12	<ul style="list-style-type: none"> ① パッケージデザインが感情にもたらす効果などを理解する。 ② パッケージデザインの目的や機能、工夫を鑑賞し、パッケージデザインの見方や感じ方を深める。 	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 完成作品を一番自分の意図が表れていると思う角度から撮影し、写真をgoogle classroomから提出する。（写真③） ② 作品を鑑賞する。よいと感じた作品の作者にインタビューを行う。鑑賞のワークシートを記入しgoogle classroomから提出する。（図④） ③ 自分がよいと感じた作品のねらいや工夫を具体的な言葉で他者に伝わるよう表現を考えて発表する。（図⑤） 	<p>ウ-①</p> <p>ウ-②</p>

5 指導に当たって

- ・伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、工夫をすることができるよう指導する。
- ・現在の制作が全時数の中でどこに当たるのか明確に提示し、見通しをもって計画的に制作を進めることができるようにする。
- ・鑑賞を通して、人それぞれの感じ方や考え方があることに気付かせ、受容する気持ちと伝達の効果をもたせるとともに、他者理解につながるよう指導する。
- ・1、2学年での学びを基に、一人ひとりの考え方の違いを認識・気付き、多様な考え方を身につけることができるようにする。
- ・共通事項における造形的な視点は、社会的な事実を客観視することと個人的な印象を主観としてもつことを行き来して行うことにより、育まれると考える。自分なりの意味や価値をもつことができるよう指導する。

6 合理的配慮について

- ・本時の目標や制作上のポイントをモニターに常時表示しておく。
- ・日本語の理解が難しい生徒に対し、googleの翻訳機能を活用した音声を使用して指導する。
- ・作業に時間がかかる生徒や欠席した生徒のために、補講を2回（1時間×2）実施する。

写真① 企画書



写真② デザインを描いた展開図



写真③ 完成作品の撮影の様子



写真④ タブレットのワークシート画像



写真⑤ 相互鑑賞会後の発表の様子



折って、切って ～自分で生み出す美しさ～

A表現(1)イ(ア)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)イ(ア)、共通事項

[対象] 杉並区立東田中学校 1年A組(31人)

[授業者] 教諭 小豆澤 皓平

1 目標と評価

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

- 知** ① 紋の形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基によさや美しさなどを全体のイメージで捉えることができる。(〔共通事項〕)
- 技** ② 紙の加工方法などを身に付け、意図に応じて道具の使い方を工夫する。(「A表現」(2))

イ 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- 発** ① 紋の形、飾る場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練る。(「A表現」(1))
- 鑑** ② 紙の切り方や装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。(「B鑑賞」(1))

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- 態表** ① 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく紋の形や色彩を生かして様々な折り方や切り方に挑戦し、見通しをもって表し、表現の学習活動に取り組もうとする。
- 態鑑** ② 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく紙の切り方や装飾の調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

(2) 題材の評価規準

ア 「知識及び技能」	イ 「思考・判断・表現」	ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
知 ① 形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基によさや美しさなどを全体のイメージで捉えている。 技 ② はさみを使い、細かい形を切り抜くなどの紙の加工方法を身に付け、制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。	発 ① 紋の形、飾る場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考えたり、表現したりする構想を練っている。 鑑 ② 紙の切り方や装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	態表 ① 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく紋の形や色彩を生かして様々な折り方や切り方に挑戦し、見通しをもって表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 ② 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく紙の切り方や装飾の調和のとれた洗練された美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 指導観

(1) 題材観

現代の高度な情報化社会の中で我々を取り巻く表現方法は、AIの進歩や人々の多様性、国際化などから多種多様な広がりを見せ、特にSNSなどの実体を持たないデータでの表現は常に変化を続けている。そのような世の中で、中学生という多感な時期を過ごす子どもたちは、新しい表現や見たことのない面白さを求めて動画配信サイトやゲームなどに夢中になっている。また、自分が求めるものはインターネットなどですぐに手に入れることができることから、自分の手で何かを作りあげるといった機会が次第に少なくなっている現状がある。

しかしながらこれからの世の中では、手作業の実感をもちながら自分で何かを作り上げることを通して、対象を見つめ感じ取り、想像力を高め、豊かに発想し構想することで自ら新しい価値を生み出していく能力を養うことが必要であり、美術科が担う役割はより一層大きいものになっていくと考える。

本題材では、身近な素材である紙を使った伝統的な紋切り紙を基にして、手作業で作品制作することを通して表現の楽しさを感じながら色々な折り方や切り方を試し、吊るし飾りとして制作する。その中で、季節をイメージしながら自分の感性や想像力を自由に働かせて、表現していく。中学校学習指導要領美術第1学年B鑑賞(1)イ(ア)にある、「身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。」を重点に置き、本題材の活動を通して身近な美しさや面白さを感じ取る力を育むことができると考える。

(2) 生徒観

美術的な活動への興味や関心が高い生徒が多く、授業内の問いかけにも積極的に答えようとする姿が見られる一方、自分自身の気持ちが先走り、周りの生徒との教えあいや学びあいについては、不十分な生徒もいる。これまでの授業では、グループワークがなく個人作業が主だったので本題材ではグループワークを中心として、生徒同士の関わりを増やし、学びあいの機会としていきたい。この題材を通して、班員の表現方法の良い部分を見つけて自分の表現に繋げ、互いに切磋琢磨する雰囲気を作るきっかけとしたい。

(3) 教材観

江戸時代から親しまれてきた紋切り紙の図案には様々な種類があり、花や動物といった身近なものからヒントを得た形が、今も受け継がれている。

本題材では、まず簡単なものから難しいものまでさまざまな図案を実際に切り、紙を開いてきれいな模様が現れる驚きや嬉しさを感じさせたい。そして、自分で設定した季節に合わせて図案や色の組み合わせで吊るし飾りを制作する。

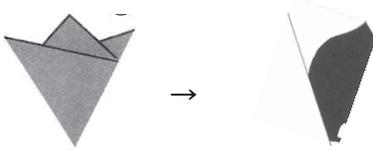
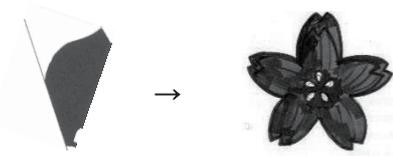
本題材を通して、身近な形や素材を作品制作に活用する体験や、自分の作品が自分の生活を更に華やかなものにする体験ができると考える。

3 材料・用具

指導者：制作セット×6班分（和紙折り紙、はさみ、デザインナイフ、のり、糸、カッターマット、マスキングテープ）

生徒：筆記用具、定規

4 指導計画と評価計画（全3時間）

時間	学習のねらい	活動内容	評価
1	<p>① 紙の特性、形や色彩、構成などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基によさや美しさなどを捉える。</p> <p>② 紙の折り方、切り方などの加工方法を身に付け、制作の順序などを考えながら見通しをもって表す。</p>	<p>① 授業の流れやねらいについて、説明を聞く。昔からの生活とのつながりについて、写真や図を鑑賞する。</p> <p>② 書画カメラで映し出された、教員の手元の映像を見ながら、制作の手順を理解する。</p> <p>③ 机をグループの形にする。</p> <p>④ 各班に配られた制作セットの中から、折り紙を選び、折る。</p>  <p>⑤ 簡単な図案から順にはさみ、デザインナイフなどで切る。</p>  <p>⑥ 他の図案に挑戦する。</p>	ア-① ア-②
2	<p>① 自分が選んだ季節の雰囲気から主題を生み出し、美的感覚を働かせて図案と色を組み合わせる表現する構想を練る。</p> <p>② 装飾の美しさなどを感じ取り、表現の工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。</p>	<p>① 前回の授業を振り返る。</p> <p>② 机をグループの形にする。</p> <p>③ 班ごとに季節のイメージを膨らませる。</p> <p>④ 季節のイメージを色と模様の組み合わせで表現する。</p> <p>⑤ 糸をつけて吊るし紙にしていく。</p>	ア-① イ-① イ-②
3	<p>① 紙の切り方や装飾の調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考える鑑賞の学習活動に取り組む。</p>	<p>① 吊るし紙を仕上げる。</p> <p>② 机をグループの形にする。</p> <p>③ 制作した作品を鑑賞する。 各班での鑑賞→代表者による全体発表。 【発表内容】 ・題名 ・テーマ ・工夫点 【鑑賞のポイント】 ・色の組み合わせについて ・図案の組み合わせについて</p>	ウ-① ウ-②

5 指導に当たって

分科会テーマである「生活や社会の中の美術」に基づき、身近にあるものを利用して表現し、自分の生活を更に美しく豊かに彩るものとして、紋切り紙を使った吊るし紙の制作を題材とした。古くから親しまれ大事にされてきた紋切り遊びには、自分で美しい模様を作り上げる面白さや、自分で思う以上にきれいに仕上げることができる驚きを十分に味わうことができる題材である。また、身近なものをヒントにして生み出された図案はどこか懐かしさを感じさせるとともに、現代の子どもたちにもおしゃれさやカッコよさを感じさせるものである。

中学校学習指導要領 第一学年目標には、「楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。」とある。今回の題材を通して、昔の人が大切にしていた身近な美しさや感情の豊かさを感じ、自分の手で生活を彩る装飾を楽しんで作り上げる経験ができると考える。



6 合理的配慮について

- ・安全指導として次のことを指導する。
【刃を人に向けない、無理に力を入れて切ろうとしない、顔の近くで作業をしない】
- ・左利き用のはさみを用意する。
- ・作業手順を書画カメラで投影するなど、視覚化する。
- ・図案のプリントを切り取って、切り方のガイドになる台紙としても使えるようにする。

共に過ごしたものを形に

A表現(1)ア(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、共通事項(1)アイ

[対象] 練馬区立南が丘中学校 3年A組(30人)

[授業者] 教諭 中山 貴子

1 目標と評価

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

- 知** ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解する。
- ② 形や色彩、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、対象を全体のイメージで捉えることを理解する。
- 技** ③ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。

イ 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- 発** ① 自然物や人工物の造形的なよさや美しさなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練る。
- 鑑** ② 作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて独創的・総合的に考え、美術に対する見方や感じ方を深める。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- 態表** ① 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。
- 態鑑** ② 主体的に作品鑑賞の学習活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め心豊かな生活を創造していく態度を養う。

(2) 題材の評価規準

ア 「知識及び技能」	イ 「思考・判断・表現」	ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
知 ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 知 ② 形や質感、色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、対象を全体のイメージで捉えることを理解している。 技 ③ 加工粘土や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し独創的に表している。	発 ① 自分の日常生活の中で身近にある。ものの造形的なよさや美しさなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練っている。 鑑 ② 作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて見方や感じ方を深めている。	態表 ① 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取った形や質感、色彩を主体的に表現する学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 ② 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に作品鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 指導観

(1) 題材観

生徒自身が主題を生み出すために、本題材では以下の2点をポイントとしている。

1つ目は、具象彫刻を取り上げた点である。蠟でできた食品サンプルのような本物と見間違ふほど精巧な作りものを目にした時の驚きや面白みを、自分が仕掛ける側となって他者に体験させたいという思いをもたせることである。どうしたら見る人の感情を揺さぶる作品になるかを一心に考え、あれこれと思考をめぐらせる過程を楽しみ、美術を愛好する気持ちを育てる有効な体験であると考えた。

2つ目は、今回のモチーフを、普段当たり前に目にし、自分が日常的に使用している身近なものとしたことである。これらは、作者にとって思い出の日が連想されたり、愛着を感じたりと個人の感覚や感情に触れるものであり、生徒自身の思いを乗せやすい作品であると考えた。自分と共に過ごしてきたものに表れた特徴を捉えて表現したり、構成を工夫したりと豊かな発想で制作にあたってほしい。

美術の授業で行う作品制作や鑑賞の学習を通じ、生徒達は自分の身の周りの何となく見過ごしてきたものの中にも美しさや面白み、感動するものがたくさんあるということに気づけるようになると思われる。たくさんの感動を身近に感じることができれば、人生は豊かになる。そのきっかけを作ることができる教科が美術科なのだと思う。

(2) 生徒観

生徒達は1年時に本題材で使用した粘土を用いてピーマンの塑像を制作している。そのため、粘土の感触や作品を乾燥させると体積が小さくなることなど知っていることもある。また、他の人のものとは違う、自分だけのピーマンの特徴を見取って表現したいという思いをもって制作し、そっくりに形作ろうとする経験をしている。

しかし、1年時には全員が同じモチーフで教師が示す制作工程やポイントを参考に制作を進めたが、今回は生徒自身で手順や工夫の仕方を構想する。3年生は2、3年時に、制作例を参考に自身の制作工程を構想する学習を繰り返しているため、要点を捉えて作品作りに取り入れられる生徒は多い。今回も参考作品とその制作工程を例示し、自分自身で制作の見通しをもてるようにする。

しかし、今までも「正解」を求め、自らが考える前に質問をする生徒も居り、「質問だけではなく、少しでも提案をしよう」という指導をしてきたが、今回はワークシート2（制作工程用「制作計画書」）の作成により、自分で考える工程が具体的になる。適切な助言を心がけ指導に当たりたい。

(3) 教材観

今回はモチーフを身近なもの、共に過ごしてきたものとしたことで、自分にとって特別感のあるものと捉えて制作にあたることができる。対象を深く見つめ形を捉えるだけではなく、共に過ごしてきたことによってできた特徴を工夫して表現したり、構成を工夫することで豊かに制作することができる。

また、具象彫刻は、自分が対象から感じ取った形や量感、質感をダイレクトに作品に表現でき、目標が明瞭であり、改善すべき点を捉えやすい。作品が発する作者が込めた思いが見る人に伝わる喜びを体験し、美術を愛好する心情を深めてほしい。

また、生徒自身で建設的に作業工程を構想し、材料や用具の特性を生かし意図に応じて自分の表現方法を追求できる部分を作ることによって創造的に表す学習を深められる。

3 材料・用具

指導者：加工粘土、のべ棒、つげべら、ニードル、クリアファイル、プリント、ワークシート1（主題設定用「面白いモチーフを探そう」）、ワークシート2（制作工程用「制作計画書」）
ワークシート3（制作記録用「作業記録」）、参考作品、スライド

生徒：教科書、資料集、筆記用具、モチーフ、ビニール袋、アクリルガッシュ、タブレット、制作に必要なもの

4 指導計画と評価計画（全12時間）

時間	学習のねらい	活動内容	評価
1	① 参考作品を鑑賞し、よさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取る。 ② 加工粘土の特徴や生かし方を知る。 ③ 共に過ごしてきたもの、日常的に目にする身近なものや、使用してきたものなど身の回りのものを見つめ、感じ取った形や質感、色彩の特徴を基に主題を生み出す。	① 参考作品を鑑賞し、作品の魅力を感じる。 ・日常的に目にするものが粘土という素材でそっくりに再現されていることの面白さを感じる。 ・モチーフに選んだ理由や思いを聞く。 ② 今回使用する加工粘土の特徴を踏まえた制作方法や表現を理解する。 ・参考作品の制作行程の例示から、のべ棒やつげべらを使った加工や、質感の表現などを知る。 ③ 表現の方法を考えながら塑像に表した時に面白さや魅力を表現できるモチーフは何かを考える。 ・持参したモチーフの魅力を考える。 ・他の人が持参したモチーフを見合い、塑像に表した時の魅力について意見を出し合う。 ・ワークシート1（主題設定用「面白いモチーフを探そう」）に制作の候補が上がったモチーフについて記入する。	イ-② ウ-② イ-① ウ-①
2	④ 決定したモチーフの制作工程を構想する	④ 決定したモチーフの制作工程をワークシート2（制作工程用「制作計画書」）に記入する。 ・使用する道具、方法、求める形状がわかるようにする。 ・参考作品の制作工程を参考に考える。 ・実際に粘土で試しながら考える。	イ-① ウ-①
3～10	⑤ 構想した制作工程を基に構造を考えて成形する。	⑤ ワークシート2（制作工程用「制作計画書」）の手順に従い成形する。 ・芯作り、あら付け、肉付け、細部、質感の表現などを工夫して行う。 ・成形が完了したら作品を乾燥させる。	ア-①② ウ-①
11 12	⑥ モチーフの色彩の特徴を捉え、絵の具で再現する。	⑥ モチーフをよく観察し、色彩の再現性を高めて彩色する。 ・必要があれば彩色後にニスを塗り質感の表現を高める。	ア-② ウ-①

5 指導に当たって

「主題を生み出すことについて」をテーマとした今回の研究では、4 指導計画と評価計画の学習のねらい①②③に当たる時間を取り上げている。

この内容は、新しく取り組む題材の導入部に当たるため、(1)生徒に興味関心をもたせ、意欲を引き出すこと、(2)素材や制作についての情報を提示することで生徒が発想し、主題を生み出すための環境を整える段階だと考える。

(1) 生徒に興味関心をもたせ、意欲を引き出すために

- ・参考作品を提示し、手にとって近くで鑑賞させることで作品の細部や質感まで感じとれるようにする。
- ・参考作品をモチーフに選択した理由や思いを紹介し、題材のイメージをもたせる。
- ・過去の生徒作品をスライドで紹介する。
- ・ワークシートを使って参考作品を鑑賞した感想をまとめる。
- ・感想を発表する。
- ・作品の演出について紹介する。
- ・モチーフの構成や見せ方を考え、より作者の意図が表現しやすい工夫について例を紹介する。



思い入れのあるモチーフを、より自分のイメージに近づけて表すために

(2) 素材や制作についての情報を提供する

- ・今回使用する加工粘土は塊にして表す他に、のべ棒で伸ばすとかかなり薄い板状にできることや、指で転がして細い紐状にできることなど素材の特性を生かした成形の例を示す。
- ・質感の表現のため、ニードルでひっかく、ブラシや布を当てるなど、粘土表面の加工の仕方について例を示す。

予め、授業に幾つかモチーフの候補になるものを持参するように指示する。複数のモチーフ候補から今回の題材で取り上げたいものを考えさせる。その上で、ルールと注意、ポイントを示す。

- ・モチーフと等倍のサイズになるように制作する。
- ・粘土の量に応じたモチーフを選択する。
- ・透明なものはリアルに制作できない。
- ・カードのような薄いものではなく量感のあるものが適している。
- ・モチーフによる制作の難易度について。
- ・そのモチーフらしく見せるための強調や省略について。
- ・モチーフは毎回持参し、観察しながら制作する。
- ・モチーフとして設定してはいけないものについて。
(生活指導上の注意)

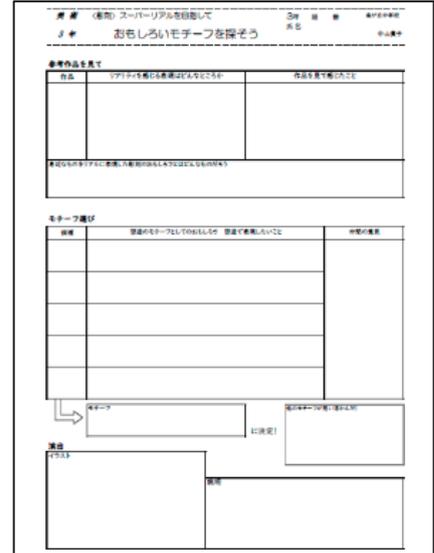
ポイントを踏まえ、自分の持参したモチーフについて考える。

- ・ワークシートに採用するモチーフの候補を挙げる。
- ・席が近い生徒同士でモチーフを見せ合い、意見交換する。
- ・最終的に採用するモチーフについて考える。今回持ってきていないものを作りたいと考えた場合は次回持参する。

6 合理的配慮について

モチーフ決定の段階で、形を捉えにくいもの、細かい作業や力の調整が多く必要な成形になるものは避ける。

- ・制作工程が掴みにくい場合には、スモールステップで工程を示す。
- ・成形の仕方を目の前で示し模倣できるようにする。



布のしわなど、形が変化するのは、強調や省略を加えモチーフらしさを表せる形にしていく。



完成作品

感じる漢字☆ ～楽しい絵文字のメッセージ～

A表現(1)イ(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、共通事項(1)アイ

[対象] 練馬区立大泉北中学校 1年A組(33人)

[授業者] 教諭 升岡 佳代

1 目標と評価

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

- 知** ① 形や色彩、構成などの効果を生かし、全体のイメージで捉えることを理解する。
- 技** ② 意図に応じて表現方法を創意工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表す。

イ 「思考力・判断力・表現力等」に関する目標

- 発** ① 自分の感じていることや内面などのイメージから主題を生み出し、形などが感情にもたらす効果や、わかりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練る。
- 鑑** ② 伝達のデザインの調和のとれたよさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、新たな価値意識や見方や感じ方を広げる。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- 態表** ① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出したこと基に創意工夫し、見通しをもって表す表現の学習活動に取り組んでいる。
- 態鑑** ② 美術の創造活動の喜びを味わい伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。

(2) 題材の評価規準

ア 「知識及び技能」	イ 「思考・判断・表現」	ウ 「主体的に学習に取り組む態度」
知 ① 形や色彩などの性質や構成が感情にもたらす効果や造形的な特徴を基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 技 ② 意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを考えながら、見通しをもって創造的に表している。	発 ① 自分の感じていることや内面などのイメージから主題を生み出し、伝える内容を考えて発想を広げ、表したいイメージを明確にし、形や色を工夫して絵文字表現の構想を練っている。 鑑 ② 伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態表 ① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出したこと基に創意工夫し、見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 ② 美術の創造活動の喜びを味わい伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 指導観

(1) 題材観

本題材は、レタリングした熟語の一部に絵を加えたオリジナルデザインとして表現している。日常的にふれている漢字から造形的な美しさや文字の意味を感じ取ることができ、生徒にとって取り組みやすい題材である。デザインされた文字の造形性や機能性について再認識し、伝達の表現に関心をもち、文字の表す意味からイメージをふくらませて表現の構想を練り、創造的に表現できるようになることがねらいである。

作品鑑賞やアイデアスケッチを通して、発言やグループでの話し合いでは、文字デザインの造形的な面白さや美しさ、作者の思いや工夫などについて言語表現することや、生徒自身が感じていることなどのイメージから主題を生み出し、心の中にあるイメージを具現化して自分らしい豊かな表現につなげたいと考える。

本題材は、美術科学習指導要領より、「A表現」(1)「イ 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。」、「B鑑賞」(1)ア「イ 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。」、〔共通事項〕(1)「ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。」および「イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。」を受けて設定した。

作品として表現することは、自分の考えや表現意図を明確にし、試行錯誤しながら自分の納得する形にしていくことである。これは、自分の夢や希望に向かってよりよい生き方を求め、試行錯誤しながら人生を切り拓いていくことと同様である。美術の制作活動においては、これが「よりよいもの」という決まった答えがあるわけではない。「よい」の答えを一つに限定することが目的ではなく、自分の考えや価値観と照らし合わせて自分なりの答えを追求していく姿勢が大切である。本題材を通して、基礎的技能に土台に、生徒が自己の内面などを見つめて、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生み出し、それらを基に創造的な活動を通して、自分にとって「よりよいもの」を追求していく活動を大切にしたいと考える。

(2) 生徒観

男女ともに授業への反応もよく、教師の指示を素直に従い、意欲的に制作に取り組むことができる。しかし、深く思考することや柔軟に発想することに苦手意識をもつ生徒もおり、構想を十分に練り上げず、安易に終わらせてしまう傾向が見られる。

1学期にレタリングの基本的な技能および色彩の基礎的な知識、色がもたらす効果、わかりやすさや美しさを感じられる配色の工夫について学習している。基本的な表現技能を土台に、試行錯誤しながらよりよいものを追求し、構想の練り上げや計画性を大切にしながら誠実に取り組む態度を養いたい。

形や色などの性質が感情にもたらす効果があることは漠然と理解してきているが、図画工作から美術への知識の系統的学習の経験がまだ浅い部分もあり、個々の制作経験や気付きなどの個人差が大きい。とくに主題をもとに構想を練る段階でのつまずきがみられ、自分の表現意図に合うように試行錯誤し、創意工夫する力に課題がある。主題設定や発想につまずくことで、自分の表現意図や制作計画等を十分にもてず、話し合い活動での対話が活発に進められないことが考えられる。

中学1年生は、まだ常識にしばられない斬新で柔軟なアイデアや発言などが期待できる場面もあるが、ただ漠然と思い描くだけでなく、アイデアスケッチや言葉で発想・構想をしたことを整理し、相手にわかりやすく伝えるための指導・支援の工夫を図る必要がある。

(3) 教材観

現代社会では、スマホやパソコン等で画像や動画を撮り、加工アプリなどで修正、加筆、色塗り、構図・配色などは容易にシミュレーションでき、オリジナル画像(デザイン)として表現できる時代である。しかし、紙と絵の具を使った制作では、ほぼやり直しがきかないため、順序立てて計画し、丁寧に制作する必要がある。そのため、思考力・構成力・工夫力を身につけさせることができる。何より、手作業で丁寧につくられる作品への愛着を深めさせたい。

また、漢字の意味を調べることを通して、その成り立ち(象形・指示・会意・形声文字等)や関連する事柄などについての理解を深めながら言語に対する感性を豊かにしていくものとする。日常的に見慣れている漢字の源を探り、自分なりの価値意識をもち創意工夫して表現することの楽しさに触れさせたい。

3 材料・用具

指導者：参考作品、図鑑・画集、レタリング字典、ワークシート、画用紙、パソコン、電子黒板、
書画カメラ、プロジェクター等

生徒：鉛筆、消しゴム、定規、スケッチブック、色鉛筆、絵の具、タブレット

4 指導計画と評価計画（全9時間）

時間	学習のねらい	活動内容	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品の鑑賞 ○視覚伝達デザインを理解 ○主題について理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵文字デザインの作品を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・表現工夫などについて着目する。 ・感じたことを発言する。 ・造形的な視点（書体・色・形・構成・バランス等）についてふれる。 ○視覚伝達デザインの基礎知識を説明する。 ○主題について説明する。 	ア-① イ-② 【発言の内容、ワークシート】
2～3	<ul style="list-style-type: none"> ○熟語を決める。 ○熟語をレタリングする。 ○アイデアスケッチ①[個人] <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットや資料を活用し、モチーフ画像を参考にアイデアスケッチを描く。 ・文字の意味からイメージを広げて描く。 ○配色計画を練る。 色の効果や表現意図に合うように配色する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感じたことや自己の内面に向き合えるような主題を提示する。 ○文字の大きさやバランスに留意する。 ○構想を練る際、レタリングした熟語を軸に、文字の意味から一部絵に変形したり、強調したりしてデザインする。 <ul style="list-style-type: none"> ・モチーフの画像検索については、アイデアを模倣させるのではなく、モチーフを描くためのヒントとして活用する。 ・アイデアをできるだけ多く出させ、構成の工夫について助言する。 ○配色パターンや色の効果についておさえる。 	ア-① イ-① ウ-① 【アイデアスケッチ、活動の様子】
4	<ul style="list-style-type: none"> ○アイデアスケッチ②[グループ]デザイン会議（構想を検討する場）を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチを互いに見合う。 ・他の人のアドバイスを基に、表現意図を明確にしてアイデアスケッチをよりよくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ交流を通して新たな気付きや工夫、見方や感じ方を広げさせ、アイデアスケッチをよりよくする。 ○話し合いの視点より、よかった点や改善点、付けたしなどを整理する。 <話し合いの視点> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の意味と絵柄が一致しているか ・形：レタリング、モチーフ等の形のとり方、配置が適切か ・色：色合いが表現意図やイメージに合っているか、配色が適切か（文字と絵柄） 	イ-① ア-② ウ-② 【アイデアスケッチ、活動の様子】
5～8	<ul style="list-style-type: none"> ○下描きする。 ○着色する。 <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に絵の具で塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧に描く。 ○着色の基礎的な技法について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆の扱い、水の分量、混色、モダンテクニックなどについておさえる。 ・表現工夫がみられる見本や参考作品を提示する。 	ア-① ア-② ウ-② 【作品、活動の様子】
9	<ul style="list-style-type: none"> ○作品鑑賞（相互鑑賞） <ul style="list-style-type: none"> ・作品紹介カード記入（名札付き）をする。 ・自分が気に入った作品を3点選び、一言コメントを描く。 ○自己評価カードを記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞の視点を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品：こだわった点、アピールポイント等を挙げる。 ・友達作品：よいところ、工夫点等を見つける。 ○発言や感想の内容等に配慮して数名発表する。 	イ-② 【ワークシート、活動の様子】

5 指導に当たって

本題材は、レタリング技法や色の基礎知識・形や色からの感情効果の学習を発展させ、印象的な文字の変形、わかりやすく美しく伝達するための効果的な配色などを考えさせたい。これらのことか、見方や感じ方を広げて表現工夫するための手立てとして以下の指導を重視する。

(ア) 参考作品を提示して関心・意欲を喚起し、絵文字デザインの特徴や造形的要素についておさえる。

◇ 発想のヒントとしての参考作品を提示する際、発想の視点として取りかかりやすい品詞を示す。(主に名詞や動詞がイメージしやすい等)

(イ) 主題設定では、感じたことや考えていること、自分の気持ちを熟語で表し、自己の内面に向き合えるような制作活動につなげていく。文字の意味からイメージしたことを具体化し、表したい内容を明確にさせる。

◇ <テーマ例>…感じたことや自分の気持ちを熟語にする。

・今の自分 (□□な気分、実は□□な私)

・将来の私 (□□になりたい私)

・今、□□な気分

→□□を熟語(二～四字)で表す。

どうしても発想等が難しい生徒には、漢字一文字でも可とする。

(ウ) デザイン会議では、グループでの意見交換を行うことによって自分の考えを伝えたり、他の人の考え等を取り入れたりしながら鑑賞の能力を深め、新たな価値意識や気付き、発想の幅を広げる。

◇ アイデアスケッチや作品に対する自分の表現意図やよさや工夫を言葉で表し、意見交流させる。



(熟語)



(着色指導)

6 合理的配慮について

(ア) 生徒がいつでも自分で確認できるように、参考作品や技法のポイントを教卓や黒板、ICTなどで提示したりする。

(イ) 「死」・「殺」・「呪」などの漢字やモチーフ選びにおいては、負の感情を強く連想させる表現にならないような指導を心がける。例えば、「血」という漢字でも何かを切って血を流したり、自他を傷つけたりするようなイメージではなく、献血等の正の感情表現にもっていくようにするなど、誰かにとって不快な思いにならないよう配慮させる。

(ウ) 作品展出品ということもあり、自己表現の場としての表現活動だけでなく、公共の場で展示することの意義や多くの幅広い層の人々が作品鑑賞を楽しみにしていることについての相手意識についてもふれる。

(エ) 作業時間を十分に確保し、一単位時間で行う内容を精選する。

(オ) ICTを活用する際、素材画像の単なる模倣や著作権の侵害にならないよう十分に留意する。

(カ) 鑑賞活動の際、自他のよさや面白さ、こだわりや工夫点などに着目させ、単なる好き嫌いや批判的にとらえないよう留意する。

Ⅲ 大会資料



令和5年度 第40回 東京都中学校美術教育研究会 第3ブロック大会（中野・杉並・練馬）杉並大会 実施要項

- 1 大会テーマ 全体テーマ なぜ、美術を学ぶのか
分科会テーマ 1 鑑賞から表現へ
2 生活や社会の中の美術
3 主題を生み出すことについて

2 日時 令和6年2月7日（水）13：30～16：30

3 時程

全体会①		13：30～13：55		会場：多目的室	
司会	事務局長	杉並区立西宮中学校	猪口 正和		
開会の言葉	実行副委員長	中野区立南中野中学校副校長	内田 善人		
主催者挨拶	都中美会長	江戸川区立春江中学校長	横枕 耕史		
実行委員長挨拶	大会実行委員長	杉並区立松ノ木中学校長	渋谷 里美		
来賓挨拶	杉並区教育委員会	教育長	白石 高士		
	東京都教職員研修センター研修部教育経営課	指導主事	平澤 卓磨		
基調提案	研究局長	中野区立中野東中学校	河内 智香子		

分科会		14：00～14：55	
第1分科会	「鑑賞から表現へ」	会場：1-A 教室	
第2分科会	「生活や社会の中の美術」	会場：1-B 教室	
第3分科会	「主題を生み出すことについて」	会場：1-C 教室	

※ 詳細は分科会一覧表（P.8）をご覧ください。

全体会②		15：00～16：30		会場：多目的室	
司会	事務局長	杉並区立西宮中学校	猪口 正和		
分科会情報共有	分科会世話人				
指導・講評	文化庁参事官（芸術文化担当）付教科調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 平田 朝一 先生				
謝 辞	都中美副会長	東村山市立東村山第五中学校長	臼田 統志夫		
次回大会実行委員長挨拶	第8,9,10ブロック大会実行委員長	東大和市立第三中学校長	中屋 珠美		
閉会の言葉	大会実行副委員長	中野区立南中野中学校副校長	内田 善人		

4 会場

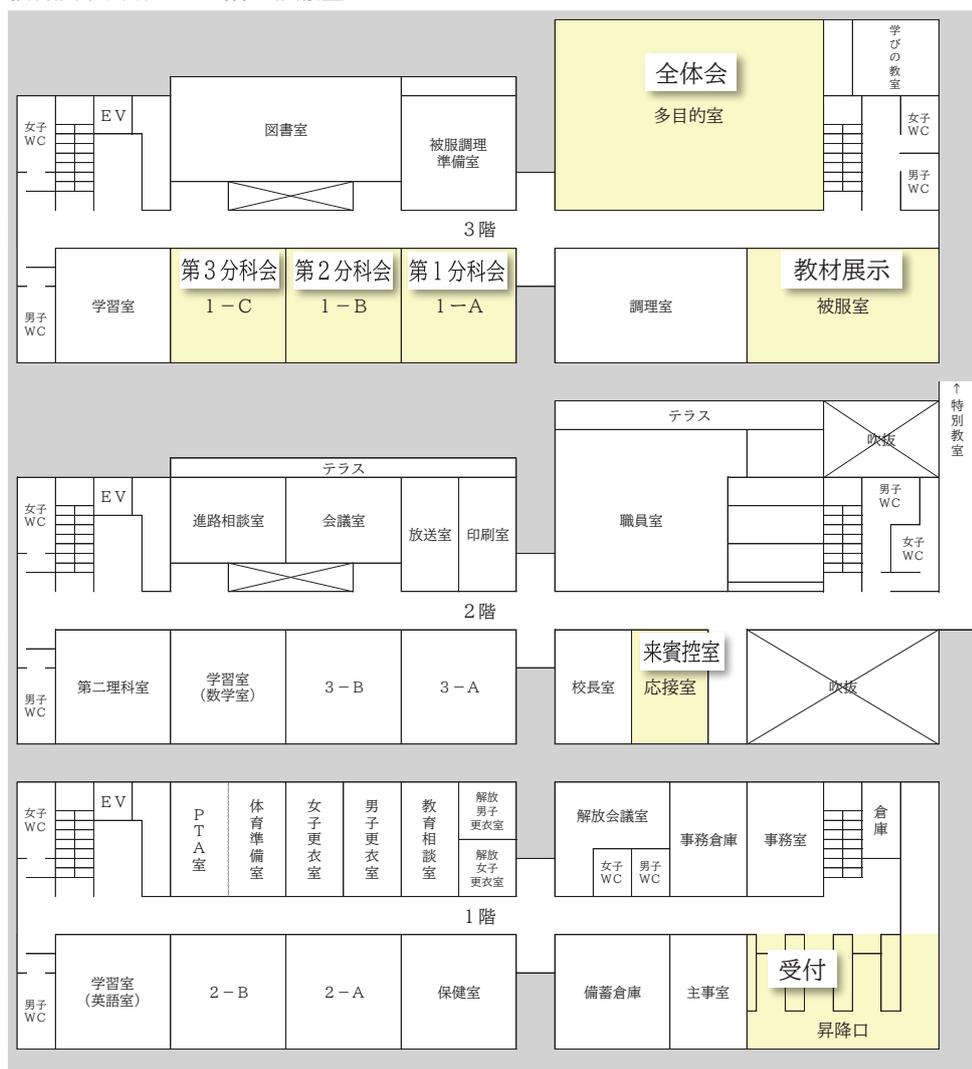
杉並区立泉南中学校 杉並区堀ノ内1-3-1 (丸ノ内線 方南町駅下車 徒歩2分)



全体会 会場： 3階 多目的室

分科会 会場： 3階 1-A 教室 / 1-B 教室 / 1-C 教室

教材展示会場： 3階 被服室



大会運営組織

総務

都中美会長	横枕 耕史	江戸川区立春江中学校長
都中美事務局長	内田 善人	中野区立南中野中学校副校長
大会実行委員長	渋谷 里美	杉並区立松ノ木中学校長
副実行委員長	内田 善人	中野区立南中野中学校副校長

事務局

局長	猪口 正和	杉並区立西宮中学校
次長	落合 完太	練馬区立練馬東中学校
局員	佐々木美緒	杉並区立東原中学校
	馬場 帯刀	杉並区立向陽中学校
	池田 葉子	中野区立緑野中学校
	須藤 美穂	練馬区立田柄中学校

研究局

局長	河内 智香子	中野区立中野東中学校
次長	鈴木 ひとみ	杉並区立高円寺中学校
	須賀田美佐子	練馬区立三原台中学校
局員	千野 希帆子	杉並区立和泉中学校
	大瀨 聡平	杉並区立松溪中学校
	滝口 浩史	杉並区立高井戸中学校
	小豆澤 皓平	杉並区立東田中学校
	長里 祐花	杉並区立中瀬中学校
	石坂 洋子	杉並区立宮前中学校
	長瀬 裕里子	中野区立南中野中学校
	重岡 いづみ	中野区立北中野中学校
	西 比呂子	練馬区立北町中学校
	中山 貴子	練馬区立南が丘中学校
	升岡 佳代	練馬区立大泉北中学校
	高野 朱未	練馬区立谷原中学校
	志村 美智子	練馬区立練馬中学校
	梶山 日花	練馬区立豊玉中学校
	東倉 洋	練馬区立豊玉第二中学校
	岡田 恭子	練馬区立大泉中学校
	倉科 幸雄	練馬区立大泉第二中学校

編集・配信局

局長	志手 伸圭	練馬区立石神井中学校
次長	二宮 智徳	杉並区立井草中学校
局員	三浦 萌絵	中野区立中野中学校
	色平 野々花	練馬区立中村中学校
	橋本 運大	練馬区立石神井東中学校
	澤井 健人	練馬区立石神井西中学校
	吉野 寿代	練馬区立石神井南中学校
	森 具視	練馬区立大泉学園中学校
	小林 秀樹	練馬区立関中学校
	松永 覚子	杉並区立杉森中学校
	西野 麻侑	杉並区立井荻中学校

庶務局

局長	松尾 美恵	杉並区立天沼中学校
次長	伊藤 範彦	練馬区立光が丘第一中学校
局員	瀧本 真央	杉並区立大宮中学校
	半本 藍	練馬区立開進第一中学校
	鶴田 梨成子	練馬区立開進第二中学校
	桑田 友亮	練馬区立開進第三中学校
	川田 渚	練馬区立開進第四中学校
	松波 由香	練馬区立貫井中学校
	上條 美穂子	練馬区立豊溪中学校
	伊藤 由李	練馬区立光が丘第三中学校

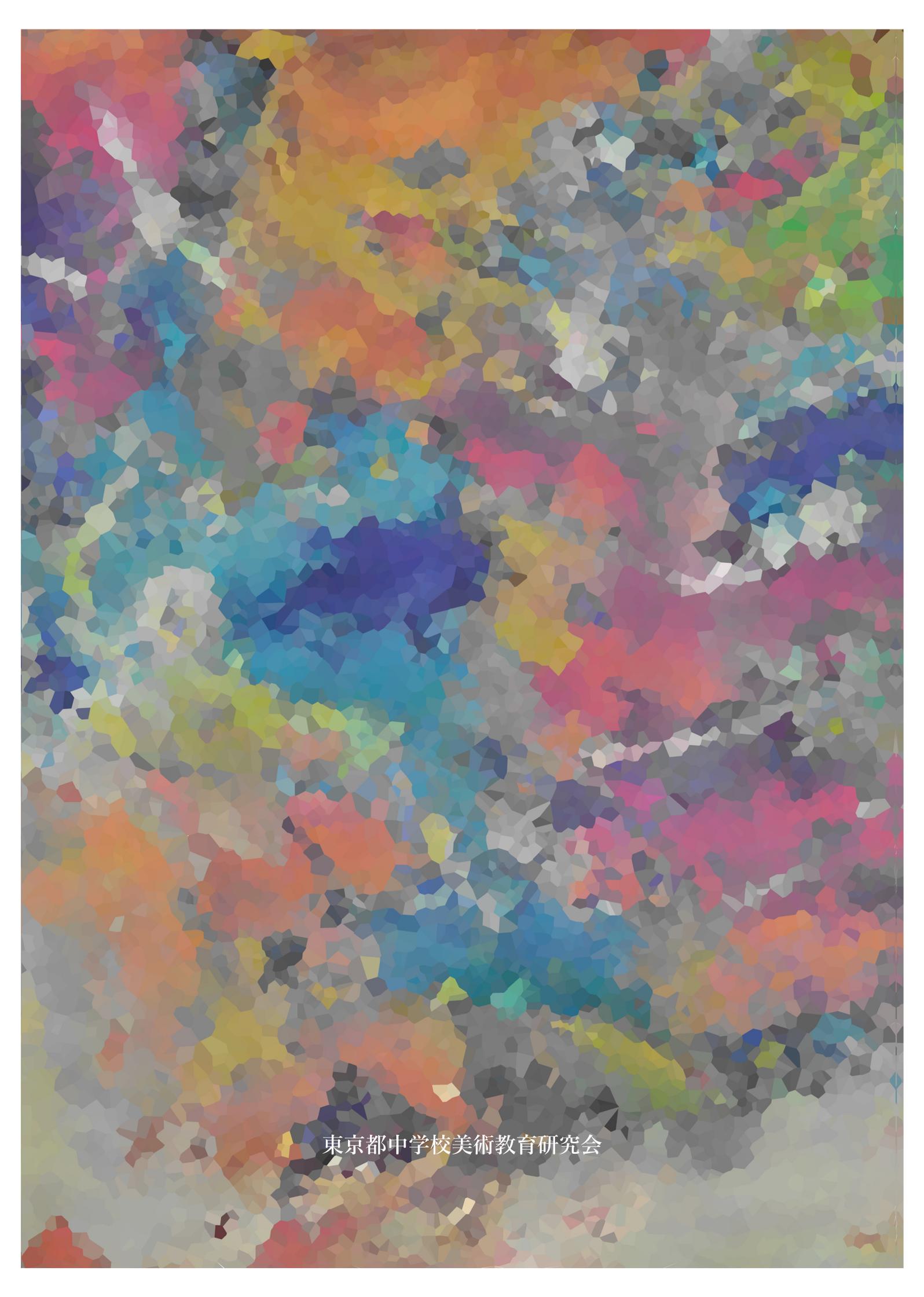
都中美HPについて

「都中美」とは、東京都の中学校の美術教員全員で組織する研究団体です。主な活動は、年1回の研究大会、各種研修会や講演会の企画。運営、また研究紀要の作成やWebによる情報発信などです。「都中美」では教育DXに伴い、これまでの諸活動を見直し、会員が積極的に参加できるような環境を整え、ホームページを中心に情報発信に力を入れていきます。相互に美術科教育の造詣を深め、日々の実践やその成果について積極的に情報交換を行いながら、美術教育の充実に向け取り組んでいます。様々な立場を超え、東京都の美術教育を盛り上げていきましょう。

都中美ホームページ <http://totyubi.sakura.ne.jp>

第40回 東京都中学校美術教育研究会
第3ブロック（中野・杉並・練馬）杉並大会 研究紀要
なぜ、美術を学ぶのか

発行 2024年2月7日
発行者 東京都中学校美術教育研究会
代表 会長 横枕 耕史
大会実行委員長 渋谷 里美
事務局 大会事務局長 猪口 正和
印刷・製本 有限会社 ピーエフパブリシティ



東京都中学校美術教育研究会